

## 令和7年度 第4次子どもかがやきプラン推進委員会における主な意見

## 1 開催日時

- 第1回 令和7年 7月10日（木） 10:00～12:00  
第2回 令和7年12月 4日（木） 10:00～12:00  
第3回 令和8年 1月29日（木） 10:00～12:00

## 2 アクションプラン2026に関係する主な意見

**政策Ⅰ 多様なニーズに応じた学びを支える学習環境の整備**

## ○学びを支える環境整備

- ・人口自体は減っているにもかかわらず、特別支援学校の子どもの数は増えており、小中学校の特別支援学級の児童生徒数についても同様に増加している。保護者の声に加えて現場の実情を把握して、短期的対応ではなく中長期的な整備計画を策定してほしい。

## ○特別支援学校児童生徒の通学支援

- ・医療的ケア児の通学支援について、資源が少なく手配が難しい地域があり、業者に委託し保護者の負担を軽減するのはよいことであるので、委託業者と連携して取り組んでほしい。

**政策Ⅱ 多様なニーズに応える学びの場の充実**

## ○発達障がいのある児童生徒等の学びの充実

- ・発達障がいの理解と支援のあり方について、子どもの実態や学校の実情に合わせた指導ができるように、学校が専門家とスムーズに相談できる体制づくりを進めていただきたい。

## ○ICTを活用した学びの充実

- ・ICTの活用については、生成AIの進展は極めて速く、教育施策・法整備が現場や子どもの実態に追いついていない実情もあるが、生徒の主体的な利活用を促進する施策の明記を検討いただきたい。

## ○社会へつなぐ職業教育・就労支援の充実

- ・発達障がいのある生徒の就労支援のために、高校の先生方が就労支援コーディネーターについて理解して活用できるようになることが望ましい。
- ・高等特支機能の整備について、子どもたちの力を最大限に引き出すための教育プログラムを充実させていただきたい。

**政策Ⅲ 学びの場を支える教員の専門性向上**

## ○研修等の充実による教員の専門性向上

- ・教育の専門的な知識や技能の習得には時間がかかると感じており、近隣の学校同士で互いに授業を見せ合うことは非常によい取組であり、進めていただきたい。
- ・発達障がい支援コア・ティーチャーと特別支援学校のセンター的機能による支援の役割を明確にする必要がある。また、特別支援学級への助言ができる人材の確保も検討していただきたい。

## ○コア・スクールの活用による教員の専門性向上

- ・特別支援学校では、職員数や経験に差がある中、段階に応じた研修の充実が重要であり、専門性を担保するコア・スクールの活用も進めていただきたい。

# 第4次子どもかがやきプラン アクションプラン 2026 (案)

2

地域と共に創る 新たな学びのスタイル

- ◆令和6年3月に策定した「第4次子どもかがやきプラン」に基づき、「インクルーシブ教育システム」が主体的に運用されることを目指して、令和8年度の主な取り組みを示しました。

## 政策Ⅰ 多様なニーズに応じた学びを支える学習環境の整備



### ○学びを支える環境の整備

- ・特別支援学校の設置基準を満たしていない学校について、児童生徒数の推移を見据え、今後の対応を検討します。

【設置基準を満たしていない学校】※令和7年5月時点

校舎:岐阜本巣、揖斐、大垣、東濃、飛騨(分校) 運動場:郡上、飛騨(本校)

- ・岐阜本巣特別支援学校:南館棟の内部改修を継続して進め、1、2階部分の教室等を整備します。
- ・郡上特別支援学校:郡上市内の候補地の調査を実施し、整備の内容について検討を進めます。

### ○高等特別支援学校機能の整備

- ・東濃、飛騨地域の高等特別支援学校機能整備計画の策定を進めます。

### ○特別支援学校児童生徒の通学支援

〔拡充〕医療的ケアが必要な児童生徒の通学支援について、事業者と連携し、保護者の負担を軽減するモデル事業を県内全域に広げて実施します。

〔拡充〕安全な運行の確保と利用を希望する児童生徒数の増加等を踏まえ、スクールバスを新規購入・増車します。

## 政策Ⅱ 多様なニーズに応える学びの場の充実



### ○発達障がいのある児童生徒等の学びの充実

〔拡充〕高等学校巡回通級担当教員が公立高等学校を訪問し、授業参観や担任との面談を行うことで、発達障がい等のある生徒の教育的ニーズに応じた支援の充実を図ります。

- ・県内全域の公立高等学校において、「通級による指導(巡回型)」を継続します。(※飛騨地域においては他校型通級指導を実施)

### ○視覚障がい・聴覚障がいのある幼児児童生徒の学びの充実

- ・岐阜盲学校を拠点とする弱視通級指導教室の支援を必要とする児童生徒の継続的な把握を行い、市町村教育委員会との連携のもと、県内全域における支援を継続します。
- ・岐阜聾学校のセンター的機能としての役割を周知し、県内全域において専門性の高い支援を行うとともに、特に早期からの一貫した指導支援を行うために、飛騨特別支援学校及び恵那特別支援学校と難聴児支援センターと連携した支援を継続します。

### ○ICTを活用した学びの充実

〔拡充〕ICT 活用の好事例や障がいに応じた効果的な指導方法を担当者会等で共有し、授業等における児童生徒のICTを活用した学びを充実します。

- ・入院やそれに伴う自宅療養を必要とする生徒に対する効果的なオンライン及びオンデマンド型授業についての相談支援を継続します。

## ○社会へつなぐ職業教育・就労支援の充実

〔**拡充**〕県内全ての特別支援学校による職業教育フェア等をとおして、働く力を育成する取組を充実します。

- ・各特別支援学校において「働きたい 応援団ぎふ」登録企業等を対象に授業を公開し、その後の意見交流をとおして学習内容の充実と就労に向けた支援体制の強化を図ります。
- ・高等特別支援学校等の実践を踏まえ、今後整備する高等特別支援学校機能の教育プログラムの策定を進めます。

〔**拡充**〕公立高等学校に在籍する発達障がい等のある生徒の就労支援のために、要望に応じて特別支援学校の就労支援コーディネーターや関係機関が連携します。

## ○医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの充実

- ・医師との連携の下、宿泊を伴う学習活動に安全・安心に参加できるよう、看護師が同行して医療的ケアを行う取組を継続します。
- ・特別支援教育担当主事会等において、医療的ケアを必要とする児童生徒への支援事例を共有し、市町村における医療的ケア実施体制の仕組みづくりを支援します。
- ・特別支援学校に勤務する指導的立場の看護師等による、小中学校等の要請に応じた相談・訪問支援を継続します。
- ・特別支援学校、小中学校等に勤務する看護師を対象とした初任看護師研修や専門性向上研修、実践交流等を継続して行い、安全・安心な支援体制の充実を引き続き図ります。

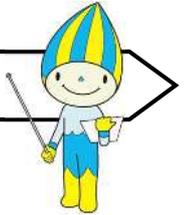
## ○交流及び共同学習の推進

- ・交流の趣旨や意義についての理解啓発を図るため、「交流籍」による交流及び共同学習や学校間・地域交流における好事例を紹介することとおして、交流内容の充実を図ります。

## ○切れ目ない支援体制の整備

- ・特別支援学校のセンター的機能により、地域の園・小中学校等における特別支援教育に関する理解を深め、支援の充実を図るための相談や訪問支援、研修会などを継続して行います。
- ・中学校等が作成した個別の教育支援計画の確実な引き継ぎと、高等学校入学後の支援を実施するまでの流れを引き続き周知します。

## 政策Ⅲ 学びの場を支える教員の専門性向上



### ○研修等の充実による教員の専門性向上

〔**新規**〕各特別支援学校教員の授業力向上を目指し、他校の教員との学び合いの場となる授業公開と研究会を開始します。

〔**拡充**〕小中学校等における発達障がい支援に関する専門性向上のために、経験年数等に応じた研修を開講するとともに、学校からの要請に応じて、発達障がい支援コア・ティーチャー等が訪問・相談支援を行います。

- ・特別支援教育コーディネーターが事例検討をとおして、高等学校における特別支援教育の推進を継続します。

### ○コア・スクールの活用による教員の専門性向上

〔**拡充**〕コア・スクール(※)が実施する専門領域に関する授業公開や相談支援等をとおして、各特別支援学校における障がい種に応じた指導力の向上を図ります。

- ・各専門領域に精通したコア・ティーチャーが講師となり、県総合教育センターにおける特別支援教育に係る研修を継続して行います。

※コア・スクール | 岐阜盲学校(視覚障がい)、岐阜聾学校(聴覚障がい)、長良特別支援学校(病弱)、  
(専門領域) | 岐阜希望が丘特別支援学校(肢体不自由)、岐阜清流高等特別支援学校(軽度知的障がい)の5校

